

主な記事

- 2面 国会要請行動
- 3面 乳幼児医療費助成一部改善
- 4面 本紙が企画賞に入選
- 5面 南アフリカ共和国(その8)
- 6面 マインドコントロール(22)

今月の会員数/医科612人・歯科235人

石川保険医新聞

発行所
石川県保険医協会
 〒920 金沢市尾張町1丁目9番11号
 尾張町レジデンス2F
 電話 (0762) 22-5373番
 FAX (0762) 31-5156番
 発行人 高松弘明
 印刷所 ソノダ印刷株式会社
 購読料 1年間 5,000円(〒共)
 (*会員の購読料は会費に含まれます)

第23回定期総会

事務局員の増員など すべての議案が可決

一九九七年度がスタート

三月一日、金沢都ホテルで、石川県保険医協会第二十三回定期総会が開かれた。最近のエイズ診療の実際から院内感染防止、エイズ拠点病院を中心とした診療態勢づくり

三月一日、金沢都ホテルの現状に至るまで、スライドを使って分かりやすく講演されました。参加した六十三人の会員やコ・メディカルの方々は、これから重要になってくる問題だけに、真剣に聞き入っていました。

河村先生には昨年末に保険医協会が主催した「薬害エイズ座談会」(本紙新年号に掲載)にも出席いただいております。保険医協会では、今後もこの問題について継続して取り組んでいくことが確認されています。

午後七時から開かれた定期総会では、筑田正志会長(松任市・外科)が議長に選任され、新たに大平三四郎(金沢市・歯科)を

理事に推薦する提案や事務局員の増員など、すべての議案を満場一致で可決しました。

新年度予算はかなり苦しいながら、理事・役員・事務局員の一致協力の下で、一層充実した協会活動を進めながら、経費削減に努力することが確認されました。

最後に総会アピールを可決して、一九九七年度がスタートしました。



開会のあいさつに立つ高松弘明会長

新点数検討会のご案内

～改定点数と、レセプト様式の変更に対応～

(金沢会場)

- とき 3月30日(日) 午前10時～正午
- ところ 石川県地場産業振興センター 新館1階ホール (金沢市戸水町イ80 ☎0762-68-2010)

(七尾会場)

- とき 3月30日(日) 午後2時～午後4時
- ところ 七尾サンライフプラザ 2階視聴覚室 (七尾市本府中町ア38 ☎0767-53-1160)

- テキスト 「点数表改定のポイント及び新明細書の記載」(3月下旬発行)
- 参加費 ○会員医療機関 1人無料/テキストは1冊事前送付します。2人目から有料(2,000円)
○原則として未入会の先生は、当会にご入会の上、ご参加下さい。(未入会の医療機関の場合1人5,000円)
- 講師 保険医協会講師団
- 対象 会員・家族・スタッフ
- 申込方法 下記まで電話またはFAXにてお申し込みください。

石川県保険医協会

電話 0762-22-5373 FAX 0762-31-5156

◎ これまで点数検討会の約1カ月後に「新点数運用説明会」を開催してきましたが、新設点数が少ないことから開催を中止しました。ご了承下さい。

記念講演

●テーマ エイズの診療



記念講演講師の河村洋一先生



記念講演の司会を務めた大平政樹理事

写真で見る定期総会



記念講演参加者のみなさん



新理事の提案をする大矢甚祐副会長



活動報告、活動方針の提案をする安藤良一副会長



総会アピールを提案する勝木育夫副会長



決算報告および予算を提案する西田直巳理事



司会を務めた申東奎理事



議長に選任された筑田正志会員

医心凡語

へール・ポップ 彗星が近づいてきた。ハレー彗星の百倍の明るさで四月一日に太陽に最接近するという。

夕方の北西の空と、明け方の北東の空の両方に見える。この次にこの彗星が現れる二千数百年後には、われわれの子孫はどうなっているだろうか▼わが子や孫に愛着を感じるのには、永遠に続く生命の幻想を持って死の恐怖に打ち勝ちたいからだと云う人がいる。しかし、同じように医師も、患者さんとその子孫が健康で生き続ける幻想に「生き甲斐」を感じている者が多い▼一九五〇年に日本全国で、妊娠中やお産で亡くなった母親(妊産婦死亡)は、四千百十七人、また、お産で死んだ赤ちゃん(周産期死亡)は、九万九千八百六十五人である。しかるに一九八八年では、前者が百二十二人、後者が八千五百四十四人となっている。家庭分娩、自然分娩がいかに危険で、いかに医学、医療の発達が人命を救ってきたかがよく分かる。それでも百パーセント救命できないのは、妊娠やお産が、台風や地震と同じように、人知を超えた自然現象なので、予想を超えた危険が潜んでいるからである▼母体死亡、新生児死亡、新生児脳障害が起きると必ず医師が訴えられるのは、患者さんと医師との心の交流が、まだ不足しているからではなからうか。

560人の医師ら、国会前に座り込み

石川から38,500人の署名を提出



国会前に座り込み、医療保険改悪の反対を訴える医師ら

た堀場保団連会長は、「九兆円の国民負担増という歴史的な暴挙」を阻止するため、今こそ、社保協の底力を発揮して、最後まで闘い抜こう」と、訴えました。

この座り込みと平行して、医療保険および介護保険の問題についての厚生省交渉も実施されました。厚生省は、「世代間の給付と負担の公平論」あるいは「高齢者金持ち論」を持ち出して医療保険「改革」を合理化しましたが、交渉にあたった代表団は、今、厚生省が行うべきことは、自らの汚職を徹底解明し、高薬価など政官財の癒着を背景とした医療費の浪費構造にメスを入れることだと追求しました。

二月二十七日、医療保険「改革」反対を中心とする保団連中央行動が開かれ、全国三十四協会・保団連から百三十六人が参加しました。全国三十四協会・保団連から百三十六人が参加しました。あいさつに立つ

二月も半ばを過ぎたというのに、体が芯まで冷える吹雪の夜、今年度の最終理事会は始められた。今回は定期総会に向けて、一九九六年度活動報告並びに一九九七年度活動方針案、一九九六年度決算報告並びに一九九七年度予算案、さらには総会アピールの検討があり、この協議に時間の大半を費やした。

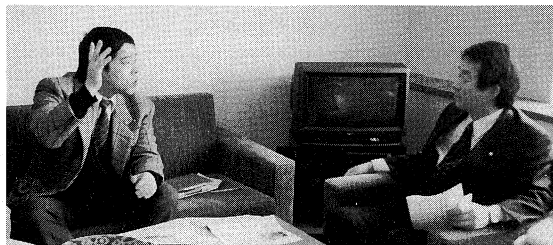
第17回理事会点描 吹雪の夜、理事燃える (2月18日・11人出席)

をいただいているとのこと。報告事項では、次回診療報酬改定に対して、

療報酬改定に対して、

医療福祉部からは改訂版「福祉マップ」の編集経過。機関紙・文化部からは「石川保険医新聞」が、一九九七年日本機関紙協会主催の新年号コンクールにおいて、初めて「優秀賞」にノミネート。過去最高位の「企画賞」を受賞した由。

様々な分野で石川協会が評価されていることは、理事者にとってもそれだけ責任が重くなってきたことへの証左であろう。(小森 記)



桑原豊衆院議員(右)は、杉野事務局員の持参した請願書に、その場でサインされた

厚生省は二月二十一日、中医協に四月一日から実施する「診療報酬点数改正案」を諮問、シナリオどおり厚生省の「お飾りイエスマン人形」の中医協は、即日！答申した。

患者の大幅負担増、健康保険料の引き上げ、消費税の5%へのアップなど、国民の生活と保険医療制度を不安定な危機的状況に追い込みながら、国民の前面に立ち、納得できる説明もせず、その責任も明確にしない。現在の保険医療は、完全に厚生省と大蔵省の官僚主導の「支配下」にあると断言しても過言ではない。決して無視できない多数の国民からの苦情や署名と陳情、多くの保険医からの批判に対し、厚生省は国民に

十一時半からは、政党や国会議員への要請、午後からは全国知事会、夕刻には日医の糸氏副会長と保団連の堀場会長との懇談も実施され、精力的な活動が展開されました。

今後、保険医協会では、市民とのシンポジウム(三月二十日・石川県女性センター)や地方議会への意見書採択を求める陳情などを通して、「改革」阻止に全力を上げる決意です。(事務局 杉野)

石川協会では、これまで最高の三万八千四百八十人分の署名をもって国会請願を行いました。

「医療保険」「介護保険」については、桑原豊衆院議員(民主)に紹介議員を依頼しました。

地区医師会長から たくさんの方の賛同が

患者さんに大幅な窓口負担増をもたらす医療保険制「改革」法案が二月十日、国会に提出され、国会論議もいよいよ正念場を迎えています。保険医協会・保団

会員からの厚生省への怒りの声 責任転嫁はもうやめろ!

会員投稿

「医師会」や「院長」の名であっては決してならない。まるで医師会や院長が自己負担増を画策したように国民に誤解されては言い訳もできない。

今回の「改悪」から、国民、患者、保険医に対する文章やポスター、告知などは「厚生大臣〇〇」「県厚生部長〇〇」と個人の氏名記入をせひとも要求する。それが医療行政の責任を明確にする第一歩である。今回の「改悪案」に小泉厚生大臣の名を明確に冠していただきたい。また表面にこそ上手に出ないが、法案の基礎固めに大きな役割を果たした菅直人氏も連署してもらいたい。

国民への負担増の強制と保険医療の荒廃化は断じて許されない。厚生省は中医協や医師会を隠れ蓑とせず、医療行政の当事者として、実態を公開し、国民の不平・批判に答えるべきである。その責任の転嫁は許されな

(金沢市 外科)

今回の健康保険法の改定(改悪)や老人医療の負担増の告知ポスターが、連では、この医療保険「改革」法案の成立を阻止するため、地方議会での意見書採択を求める運動を進めています。

地方議会の意見書は、地方自治法にもつき政府の関係機関に提出されるもので、国民の世論を反映し、政府の施策に大きな影響を持つものです。同法案の国会での審議は、四月以降と言われており、当会では三月地方議会に向

地方議会に陳情した内容は、下記の通りです。

「健康保険本人の窓口負担二割化と保険料の引き上げ、外来での薬代負担の導入、老人医療に対する大幅な窓口負担増などを目的とする医療保険制度「改革」を中止するよう、国に対して、地方自治法第九十九条による意見書を提出していただくこと」

各地方議会における審議結果は、三月中・下旬に判

重油流出事故 なぜこんなことに

海を守らない「海洋国」

ロシアのタンカーから流出した重油は、除去作業に携わった四人の命を奪い、島根から新潟まで広い範囲に被害を与えています。もしも、山陰沖の深海に沈んだ本体部分の一万一千キロリットルが流れ出せば、山陰や北陸の海洋は長期間汚染されるというわけです。海洋国日本で、なぜこんなことになったのか……。

英国では、海洋汚染対策部隊(MPCC)が、運輸省沿岸警備局に属しながらも国務大臣と同等の権限を与えられ、年中無休二十四時間態勢をとっており、フランスも大型

タンカー事故に対応できる大型の大型えい航船五隻が二十四時間出動態勢にあるといわれます。これは、急速に拡大する油の汚染防止は、流出後四十八時間以内の対応がカギとされているからです。

ところが、日本は、外洋でも稼働できる大型の油回収船は日本海側にはゼロ。たった一隻、名古屋港に配置されている運輸省の青龍丸が現場に着したのは、事故発生(二月二日)六日後の八日夜。政府の対策本部設置は、英国やフランスの二十四時間態勢とは比較

にならない八日も遅れた十日でした(ボランテア団体でさえ、十日に現地本部を設置、翌日には二千人のボランテアがかけた)。日本には民間を含め油回収船は五十一隻あるようですが、どれも一メートル以上のうねりがある外洋では作業できず、外洋で活動できる青龍丸も、うねりが二メートルを超すとほとんど役に立たないといわれます。

つまり、日本は、世界有数の防衛費をつぎ込み、日本海を挟む「朝鮮有事」態勢づくりに熱心でも、冬の日本海でのタンカー事故一つにも手が出ない、という状態にあるわけなのです。

(連合通信)



この美しい景観もさることながら、環境への影響が心配(昨年11月撮影・富来)

一九九一年の湾岸戦争で大量の原油が流出したペルシヤ湾の海は、その後どうなっているのか。現地を四回調査した谷山鉄郎・三重大学教授によると……。

「サウジアラビア沿岸域二百キロメートルにわたって沈んだ原油は、砂と混じり合って泡状となり、いまも黒くべっとり

ペルシヤ湾は今……

と汚染している。自然の浄化を待っているが、遅々として浄化は進んでいない。「油が」沈殿すると、海藻類が繁殖しなくなり……生態系は再生不能に陥る。現に、ペルシヤ湾では……汚染に弱い貝類の姿は今でも見られない」(朝日新聞一月二十四日)

乳幼児医療費助成が一部改善の見通し

全市町村で「小学校就学前」までの助成をめざして

石川県の乳幼児医療費助成制度が今年度より一部改善される見通しとなりまし

これまでの助成対象は、0歳児の外来・入院と一、二歳児の入院でしたが、今年四月より三歳児の入院医療費まで拡充されることになりました。これは保険医協会をはじめ、多くの市民団体が県に要望し、運動してきた成果です。

しかし、一九九四年三月の県知事選挙の際に谷本知事は、「当面二歳未満児までの外来・入院の無料化をめざし、現物給付と千円足切りは検討する」(保険医協会の医療政策アンケートへの回答)と答えています

が、このことからみれば、まだまだ不十分な内容です。本年四月から二歳児の外来医療費まで助成対象を拡大することにしました。これは昨年四月に導入された「三歳未満児の外来医療への対象拡大」「支払方式を現物給付に」など、助成内容の改善を求めて引き続き要請していきたく考えています。

一方、このような県単独事業への上乗せとして、川北町では少子化対策の一環として、本年四月から助成対象を外来・入院ともこれまでの二歳児から「小学校就学前」まで引き上げることになりました。従来は、辰口町の「小学校就学前」までの入院助成が最高でしたが、今回の川北町の改善で、県下で最も進んだ助成内容となります。

さらに金沢市医師会などの要請に答えて、金沢市も

本紙に投稿をお寄せ下さい。

保険医協会では、会員・読者のご投稿をお待ちしております。医療問題や、地域で起こった話題、趣味についてなど何でも結構です。字数は六百字から八百字程度。毎月月末が締切になります。◎詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。☎0762(22)5373

囲碁解答

白5以後どうしても左上の黒7子は助かりません。

(問題は6面)

市民の声

最近、八〇二〇運動いだろうと思う。在宅介(八十歳になっても二十護をしている八十三歳の数字を新聞などでよく目本かあって、それがむしろ食べましよう」とのこ

市福祉課で歯科の先生を紹介してもらえうだが、すぐに診ていた。私はいくらから歯が弱く、今では何本かはさ八〇二〇を提唱するのと同じに歯科の先生の往診も国、県レベルで力を入れてほしい。そうすれば高齢者も安心できると思う。

(本稿は二月八日付け北陸中日新聞より転載しました)

主 婦 渡辺 幸子 52

歯科医の往診にもっと力を入れて

歯が痛くなってもすぐに歯科医に診てもらえな

ボケ老人をかかえる 石川家族の会

第67回つどいのお知らせ

- とき 3月23日(日) 午後1時~4時
 - ところ 松ヶ枝福祉館 1階いきがい活動室 (金沢市高岡町7-25 ☎0762-31-3571)
 - 助言者 松原五郎先生(まめだ歯科医院院長)
 - テーマ 訪問歯科診療
- お年寄りの「食」をサポート——

※家族の会から当会の「訪問歯科診療ネットワーク」に依頼があり、松原五郎先生が話題提供することになりました。お気軽にご参加下さい。

新年号コンクールで **企画賞** を受賞

優秀賞にもノミネート エイズ座談会が高く評価

事務局 杉野洋一郎



表彰式には、全国から86人の受賞者が出席
(本紙が入選した過程を説明する審査委員)

二月十五日(土)、東京池袋の東京芸術劇場五階会議室で、日本機関紙協会主催の新年号コンクール発表・表彰式が開かれました。

このコンクールには本紙も毎年応募しており、これまで十回の「佳作」、三回の「写真賞」、一回の「審査委員特別賞」を受賞してきました。

そして本年、限りなく優秀賞に近い「企画賞」を受賞しました。表彰式は予定通り午後一時半から始められ、機関紙協会理事長の北村肇氏(元毎日新聞記者・現新聞労連委員長)による開会あいさ

新年号コンクール審査委員からの本紙への個別講評

新年号によく見られる企画として、「会長に抱負を聞く」というものがありますが、多くの場合、長すぎたり、記事の構成が単調であったりと、読者を引き込む企画になりにくいものです。しかし、貴紙の場合、聞き手と語り手がお決まりの写真ではなく、イラストで紹介されている点やコンパクトにまとまったレイアウト、なによりも質問とそれに対する返答が端的に書かれている点など、読みやすくなっていると思います。同じことが、新春特別座談会にも表れていて、司会を担当するエイズ問題担当理事から各専門家に向けての投げかけは明解で、引きつけられます。薬害エイズ訴訟を支援する活動にわずかながらも関わってきた私も、専門家の声として興味を引かれる点がありました。

薬害エイズばかりでなく、厚生省官僚の不祥事、医療保険制度の改悪、これからの福祉や介護など、関係する方々にとって避けられない課題が多い現在、それらの企画をより前面に出してほしいとも感じました。また、石川という地域が抱える独自の課題や医療分野以外の社会問題を取り上げてほしいとも感じました。

「おたずねします」もインタビューに終わるだけでなく、家族やスタッフを登場させることで、読者を広げているのが分かります。73回も続けているのは人気がある証拠でしょう。全体として、硬軟取り混ぜた企画はとっつきやすさとともに学習に結びつく紙面だと思います。ただ、読者投稿が多い反面、座談会の中に「患者のための医療」という言葉があるのに、その患者の声があまり載っていないように思いますが、通常号もそうなのでしょうか。

レイアウトについては概ね読みやすいと思いますが、見出しの文字数が多く窮屈になっているのと、地紋のかけ方が同じ形(四角)が多いので単調な感じがしました。

(批評者) 渋谷 隆

Bコース116紙中、上位10位以内に入賞
新年号コンクールでは、賞が分かれており、Bコースでは「最優秀賞」一紙、「優秀賞」三紙、「奨励賞」一紙に続いて「企画賞」(Bコースでは四紙)が位置づけられています。Bコースつまり本紙は、Bコース十七紙中百十六紙がこのBコースに応募していま

つの中で印象深い話がありました。

機関紙で未来をつくる

北村氏はまず、「二十一世紀にはメディアはますます多様化してくるが、新聞は絶対に無くならない。むしろ、より一層必要になってくるはずだ」とし、機関紙も同じとした上で、「しかしこれまでのような機関紙ではいけない」と続けられました。具体的には、「よく使われる見出しで『：に未来はあるか』というのがよくあるが、未来はその団体が作るもので、『未来をどう作るか』という内容を掲載しなければいけない。未来を書くことによって、その団体が『明日』を作っていくという役割を担えるのだ」と強調されました。



贈られた賞状とトロフィー

さらに北村氏は、「機関紙には、あれもダメ、これもダメという記事が多すぎます。事例を上げれば、『沖繩に基地はいらない』といった記事である。沖繩に基地はいらないのは当たり前前の話で、だめなことは誰でも

知っている。誰でも知っていることを書くだけではダメで、どうすればよいかを書くべきである。基地をなくするために、そして基地を無くしてどうするかを書くのである」と、二十一世紀の機関紙の在り方を示唆されました。

記事の深さが評価されて

続いて各コース別の分科会が開かれました。Bコース分科会では、上位入選した十団体を含む編集担当者約二十人が出席し、机いっばいに広げられた機関紙を囲み、自己紹介および新年号の苦労話などを交流しました。Bコースの審査を担当した審査委員の一人から、審査についての説明がありました。「Bコースでは八人の審査委員が審査にあたり、最初二十紙、三十紙をそれぞれ抽出し、その量が多く企画性に富み、しかも一つひとつの記事に深みがある。特にエイズの座談会では、最近の座談会にありがちなありきたりの内容ではなく、人権と患者のための医療をめざす医師

寄せられた黄色いハガキから

《事例104》社会保険

気管支炎、胃炎の患者にナウゼリン坐薬60mgを2個投与したところ、「効能・効果」は、成人の場合、次の疾患及び薬剤投与時の消化器症状(悪心・嘔吐・食欲不振・腹部膨張・上腹部不快感・胸やけ)／胃・十二指腸手術後、抗悪性腫瘍剤投与時の場合に適応です、と返戻された。

〈主治医の意見〉

嘔吐に対して服薬しても、ある程度落ち着いてからでないとおかず、みな吐いてしまいます。ナウゼリン坐薬は、いくら吐いてもある程度効きます。(他に有効な薬があればそれを使います)

ナウゼリン坐薬の「効能・効果」をみると、「次の疾患及び薬剤投与時の消化器症状(前記)」とありますから、日本語として「及び」は並列になりますから、症状(カッコ内)と病名とが「効能・効果」の中に含まれるものと考えてもよいのではないのでしょうか?

〈保険医協会のコメント〉

これはナウゼリン坐薬60mgを頻用しているとみなされた「注意返戻」です。このような場合、「服薬してもすぐ吐いてしまう」などの注記が必要でしょう。

なお、現在のところナウゼリン坐薬は30mgまで認められています。

《事例105》社会保険

急性咽喉炎、下痢症の患者にダベジール散を投与したところ、減点された。これまでは減点されていなかったのに、なぜでしょうか。

〈保険医協会のコメント〉

ダベジール散の「効能・効果」は、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患となっています。従って、上記の場合には、アレルギー性鼻炎の病名がなければ減点されています。これまで減点されていなかったのは、審査委員の点検漏れがあったからだと思います。

●エイズ座談会が良かった。大平ドクターと河村ドクターが光っていた。連合通信の記事は埋め草的なのでよした方がいい。(金沢市・医師)

●第一面が良かった。訪問診療と歯科と文化が一体化した紙面で、出来映え上々ですね。この団体の機関紙か分からないような機関紙もありますが、自分の組織の成果も評価できない機関紙にならないようにしましょう。本年も頑張ってください。生き生きとした保険医協会の便りは活性化源になります。(神奈川県・医師)

●いつも貴紙を読ませていただいています。いろいろ興味を引く記事があり、大変勉強になります。つきましては「今日からできる訪問歯科診療の手引き入門編」を送っていただけませんか。よろしくお願いいたします。お金は着き次第送ります。私は重度の身体障害者の通所施設に勤めている者ですが、施設で年一回定期健診を実施しています。通所生には定期健診について、もっと興味をもっと欲しいのですが、マンネリ化してしまっています。何か興味を引くようなアドバイスなどありますでしょうか。また、よろしく願います。(金沢市・施設職員)

●「エトの民話」「牛の豆知識」はおもしろかったです。大石先生のシリーズもさすがと思いました。読者の自由な意見をどんどん掲載して欲しかったです。(穴水町・医師)

●忙しかった年末年始を経て、本日ほっと一息、読んでいねいに保険医新聞を読みました。「ちょっと聞いて」は、境界域の疾患について教えられることがあり、興味深く読ませていただいています。協会活動もいつも目を通しています。くだけた内容が多く、いつも面白く読ませていただいています。(金沢市・医師)

●これまでの保険医新聞の中で最高の出来だった。レイアウトや印刷もきれいだし、記事も抱負で読みごたえがあり、保険医協会の勢いが感じられる紙面である。(金沢市・医師)

●サイコロシカルショート・ショートを非常に興味深く読ませていただいております。できれば冊子になったならと思っております。今後のご活躍をお祈り申し上げます。(金沢市・法人職員)

●「医心凡語」を毎回来しく読んでおります。必ず医療行政の在り方で結ぶあたり、保険医協会だなと感心しております。(金沢市・会社役員)

●訪問歯科診療を読んで、今、娘を二人歯医者さんに連れていっています。お医者さんも大変だなと思いつつ、私も老後こんな訪問歯科診療があればと思っております。(川北町・会社員)

●トップの訪問歯科診療の写真が良かった。縄文人の話も興味深かった。桂田富士郎博士が石川県出身であることを初めて知った。(兵庫県・医療事務)

新年号に 寄せられた

読者の声

●いつもD rの読んだ後、神経ブロックの話が良かった。(金沢市)

●「ちょっと聞いて」の抜とも言える一方、妙に

●「読者投稿」の八田ホムのお年寄りたちが作った作品がとても良かった。(金沢市・看護婦)

●「読者投稿」の八田ホムのお年寄りたちが作った作品がとても良かった。(金沢市・看護婦)

●「読者投稿」の八田ホムのお年寄りたちが作った作品がとても良かった。(金沢市・看護婦)

●「読者投稿」の八田ホムのお年寄りたちが作った作品がとても良かった。(金沢市・看護婦)

●「読者投稿」の八田ホムのお年寄りたちが作った作品がとても良かった。(金沢市・看護婦)

●「読者投稿」の八田ホムのお年寄りたちが作った作品がとても良かった。(金沢市・看護婦)

●「読者投稿」の八田ホムのお年寄りたちが作った作品がとても良かった。(金沢市・看護婦)

●「読者投稿」の八田ホムのお年寄りたちが作った作品がとても良かった。(金沢市・看護婦)

北山吉明ドクターの 南アフリカ共和国

訪問記

〔その8〕

戸惑う南アフリカ

得た自由と失った秩序の中で

「いま世界で一番治安の悪い国がこの国です。殺人、強盗は日常茶飯事、そのほとんどがこのヨハネスブルクに集中しています。」

車を運転しながら日本領事館勤務官の青山先生は話し始めた。

「車が交差点で止まる



郊外の黒人住居。粗末なバラックがひしめいている

でしよう、すると拳銃を手にした四、五人の黒人が、強盗は日常茶飯事、そのほとんどがこのヨハネスブルクに集中しています。」

車を運転しながら日本領事館勤務官の青山先生は話し始めた。

「車が交差点で止まる

「いま世界で一番治安の悪い国がこの国です。殺人、強盗は日常茶飯事、そのほとんどがこのヨハネスブルクに集中しています。」

車を運転しながら日本領事館勤務官の青山先生は話し始めた。

舵を失った船のように

「いま世界で一番治安の悪い国がこの国です。殺人、強盗は日常茶飯事、そのほとんどがこのヨハネスブルクに集中しています。」

車を運転しながら日本領事館勤務官の青山先生は話し始めた。

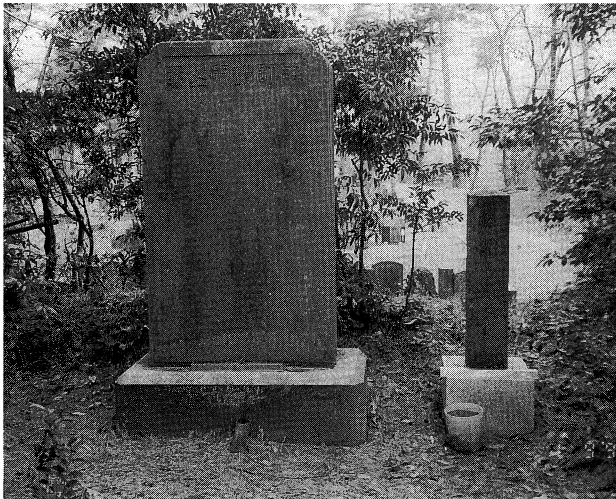
「いま世界で一番治安の悪い国がこの国です。殺人、強盗は日常茶飯事、そのほとんどがこのヨハネスブルクに集中しています。」

車を運転しながら日本領事館勤務官の青山先生は話し始めた。

石川県医事文化史跡めぐり

<23>

石川県士族で最初に篤志解剖を受けた 三輪照路の墓と碑文撰者の主治医小川子政 多留淳文 (日本医史学会評議員) (金沢市・内科)



解剖遺骸之碑(左)と三輪照路之墓(右)

石川県で篤志解剖を受けた第三号、三輪照路の者か特殊なケースに限られたが、三輪照路は

士族、国学者で白山比叡神社の神官であり、解剖の行われた場所が金沢医学校であったこと、また、剖検所見と臨床診断が一致して胃癌であったこと、近代日本医学の創始期の国民と医師の意気込みを感じざるを得ない。三輪照路は剖検後、先祖と同じ卯辰山末広墓地に葬られたが、後に無縁墓域に整理されていた。一九九三年、隣接の金沢大学解剖体墓地の一角に国費で台座が作られ、移設された。この墓と並んで解剖遺骸之碑(一八八三年、金沢医学校職員ら建立)があり、田中信吾

サイコロジカル・ショート・ショート

マインドコントロール編 (その22)

台風

大石 ひろし

パリィン…ガチャン
ガラスの割れる音が深夜の夢を破った。目を開けると、暗い中でカーテンがはためき、生暖かい空気が寝室の中を吹き荒れている。
(台風でガラスが割れたんだ)
信一はそこまでは理解できたが、寝室での暴風という考えられない出来事のために、呆然としていた。
枕辺の電話が鳴った。
「先生ですか、お宅の煙突が倒れて、後ろの家がつぶれますよ」
声の主には聞き覚えはなかった。
病院裏手の炊事場の戸を開けて外に出ると、狭い

路地には人だかりがあり、非難めいた眼が一斉にこちらを向いた。人々の足元には電柱の倍の大きさもあるような四角いコンクリートの柱が、ところどころ折れて道路を横切っていた。見上げると、向かいの家の二階の屋根にも一塊りのブロックがめりこんでいる。家は古い木造で、今はだれも住んでおらず、物置になっていたという。カメラのフラッシュが二、三回光った。
(こんな大きなものがどこから落ちてきたんだ)
四階建てのわが病院の建物を振り返ると、二階のベランダから屋上への外壁の一部がはがれ、二本の太いパイプが露出しているのが薄闇の中に見えた。
信一は病院を建てたときのことを思い出した。地上の貯水槽から屋上の水槽へ送るパイプが、パイプシャフトに入りきらず、やむなく外部に取り付けた。それを覆ったブロックが倒れたのに違いない。
(人家でなくてよかった)
信一は心から神仏に感謝した。
器物破損の弁償の話し合いは順調に見えた。
一回目は相手の夫婦が来た。男は小柄な白髪交じりの役所勤めで定年近い雰囲気があった。こちらも誠意をもって償いたいというのと、単純に喜んでる様子であった。
(この家は昭和九年の建築というから、一部を修理

しても人は住めそうもない。こちらが修理費を出して、家主が家を取り壊すというのが合理的だ)
結局、信一が修理費を見積もり、金で支払うという事で双方は同意した。
しかし、高額の金銭トラブルがいつもそうであるように、二、三日たつと相手の言い分は変わった。
「修理費の見積もりは、瓦は本焼き、柱は二階まで継ぎ目なしの一本木。壁はパネルではなく、塗り壁」でお願いします
これは、十年乗った中古車の破損を弁償するのに新車の値段をよこせというに等しい。信一は友人の弁護士に電話した。
「自宅の一部が天災で他人の器物を破損した場合、自宅の管理を十分してあれば支払わなくてもいいわけですよ。しかし今の場合、道義的には弁償しなければならんでしょう。その金額を決める場合は、不動産鑑定士に見てもらえばいい。破損前の推定評価値から破損後の価値の差額を支払えばいいわけですよ」
これならば納得がいく。信一は、相手の家へ話し合いに出掛けた。
信一の話聞いて家主は言った。皺の奥の、以前は人の良さそうに見えた細い目がきらりと光った。
「先生、弁護士に相談するというのは、ケンカするということじゃないですか。そっちがその気なら、

校長撰の碑文によって金八四四〇七(一七〇七)は文大医学部初期の解剖状況を知ることができる。
三輪照路の墓の右側面には「明治二十年九月八日歿、享年四十九年九月」と記されているだけで、碑文はない。別に碑文が記された顕彰碑があったらしいが、現在、所在が不明である。幸い、その碑文は三輪照路の主治医(加賀藩医)小川子政の『南晴遺稿』(石川県立図書館蔵)に収録されているので、本人自筆の「先祖由緒并一類附帳」(金沢市立玉川図書館蔵)と合わせてご覧願いたい。ご訂正ください。

保険医協会の休業保障制度

本年度の募集を開始します

募集期間：4月1日～5月23日

詳しくは案内チラシをご覧ください。
なお、説明が必要な場合は、日時をご指定いただければ、募集担当員がお伺いし、詳しくご説明いたします。

第2休業保障の保険料引き下げのお知らせ

第2休業保障の募集を、今年度より富山協会と合同で行いました。この結果、石川協会の加入者累計が53人、富山協会との加入者合計が100人を超えましたので、保険料の団体割引10% (これまで5%) が実現しました。
加入者には個別にご案内し、4月分(第1回引き去り日：3月25日)から割引きした保険料を請求させていただきます。

碁

出題者 七段 向井富治(金沢市・内科)

白番の手があります。五手目に好手がありません。

こつちも手だてがある。私もある団体を知っている。先生、ここで商売できんようになってもいいですね」

人は大事なものを失う可能性には恐怖を感じる。孫子の兵法にもあるように、相手に恐怖を与えるのはマインドコントロールの常套手段の一つである。

(解答は3面にあります)